
公益社団法人 大阪府工業協会

平成28年度 事業計画書

自) 平成28年4月1日 ～ 至) 平成29年3月31日

わが国経済は、年初から円高・株安が続き停滞感に覆われている。設備投資は依然として低調で、個人消費もインバウンド需要を除けば伸び悩んでいる。日本銀行は、大幅な金融緩和に向けて前例のないマイナス金利政策を打ち出し、本格的なデフレ脱却と景気回復を進めているが、实体经济への反映はまだまだ途半ばの状況にある。

一方、中国経済の急激な失速や新興国の成長鈍化、あるいは原油安の影響により株安が世界的に伝播しており、欧州では景気低迷が長期化、比較的好調だった米国経済も減速懸念が強まってきている。グローバル化の時代は不況の連鎖も避けられず、日本もその渦中であって、今後も先行きに明るさの見出しにくい状況が続くことを覚悟しなくてはならない。

こうした不安材料の多い情勢のなか、これからの企業間競争はかつてない厳しいものとなる。当協会においては、経営基盤強化の支援を使命としてさまざまな事業を展開しているが、今後も社会情勢と企業のニーズをしっかりと見極め、さらに積極的な取り組みを進めていきたいと考えている。

企業、とくに中小製造企業が活路を見出し、さらに持続的成長を果たすためには、ものづくりの強化を柱とした競争力向上が欠かせない。そのため、従来からの基幹事業である「人づくり」を中心とした研修事業をさらに活発に行い、製造および技術分野の人材の底上げおよび変化への対応を支援する。

もうひとつの柱である研究会活動・企業間交流の事業についても、今年度は医療機器分野への市場参入を目的とした情報収集の場を開設するほか、大手自動車部品メーカーへの販路開拓支援としてマッチング商談会を開催するなど、新しい取り組みを行っていく。

具体的には以下に示す計画にもとづき、人材育成も交流事業も企業内の各階層、各職種にあったきめ細かな対応を図る。当協会はこうした活動を通して、地域経済ひいては広くわが国産業の活性化に貢献し、公益法人としての役割を果たしていく方針である。

【公益社団法人大阪府工業協会 事業体系】



平成28年度 事業計画

1

生産性向上・合理化推進事業

国内需要の低迷、製品ライフサイクルの短期化、グローバルな価格競争、為替リスクなど、日本の製造業をとりまく環境は依然として厳しく、こうしたマイナス要因をいかにして乗り越えていくかが企業の命題である。そのための前提となるのが経営体質の強化、とりわけものづくりの競争力向上であると言える。高品質な製品づくりはもちろんのこと、生産性のさらなる向上、多品種・小ロット・短納期といった市場ニーズへの柔軟な対応など課題は山積している。

本事業では、現場力を高める管理・改善の実践手法、ならびにそれを担う人材の能力開発をテーマに、さまざまな切り口でセミナーや研修講座を展開。「人づくり」を通じて、製造業にとっての生命線ともいえる現場の基礎固めとさらなるレベルアップを強力に後押ししていく。

1-1 生産管理セミナー

売れるものを売れる時期に売れるだけ作るというのが企業の命題。そのために必要な生産管理手法（生産計画、工程管理、在庫管理、原価管理など）について学ぶ。

※具体的なテーマの例を枠内に記載（以下同様）

- ・納期遅れを起こさない生産統制のやり方
- ・生産管理の仕組み改善
- ・原価の把握と低減の着眼点
- ・資材購買業務の基礎とコスト低減 など

1-2 品質管理セミナー

品質は企業の信頼や競争力を左右する重要なテーマである。不良品の発生を抑え、また、発生しても外に出さない仕組みづくりが不可欠であり、そのために必要な技術・手法を学ぶ。

- ・製造工程で進める品質づくり込み
- ・QC工程表と作業手順書の作り方
- ・検査業務の徹底見直しとレベル向上策
- ・製造現場のポカミス対策 など

1-3 現場改善セミナー

過剰な在庫、作業の手待ち、装置のチョコ停、仮置きや移載作業など、現場に潜在するムダを徹底的に排除し、生産性を高めることで製造原価を下げる。実践に活かすさまざまな改善手法を学ぶ。

- ・製造業の収益向上策 原価低減の切り口
- ・リードタイム短縮の進め方
- ・簡易自動化 考え方・進め方
- ・ムダの徹底排除 着眼点と進め方 など

1-4 工場管理実務研修

工場の管理・改善に必要な実務テーマを相互に関連づけ、実務者や管理者を対象として中長期コースを開催。幅広い知識を複合的・体系的に学ぶことで、実践力の向上を図る。

- ・現場改善実践研修コース
- ・多品種少量生産 管理・運営の実務
- ・化学物質を扱う工場の安全管理
- ・生産管理ベーシックコース など

1-5 製造部門人材育成研修

製造部門の若手社員から、リーダークラス、管理者までのスキルアップ研修。若手層は実務能力強化とモチベーションアップを、リーダー、管理者は部下指導、リーダーシップのとり方などを学ぶ。

- ・製造現場の問題解決力強化研修
- ・工場長研修 実行すべき10原則
- ・製造係長 高野山宿坊合宿研修
- ・製造部門リーダー研修 など

かつて技術立国と呼ばれたわが国も、新興国の台頭によってその地位は相対的な低下を招いている。しかしながら携帯端末や光学機器などの電子関連製品、あるいは次世代自動車の中枢を担う機能部品の製造など、さまざまな分野で世界の最先端をリードする強みを有している。また、新素材の開発、微細・超精密加工など、高度な技術・技能、ノウハウを必要とする分野において日本の優位性はまだまだ盤石なものがある。

熾烈な国際競争のなか、他社との差別化を図るためには、そうした技術や技能にさらに磨きをかけるとともに、イノベーションにより新たな価値を創造していくことも必要である。

本事業では、製品の設計から、切削などの加工技術、機械の保全や環境技術にいたるまで、対象を細分化し、幅広いテーマを設定。また、多くの中小企業で課題となっている技能伝承の一助となるよう、民間企業の研修施設を利用した技能研修や工学系の基礎や切削加工について学ぶ長期講座を開催するなど、技術水準の高度化、技術人材の育成に注力していく。

2-1 工業技術セミナー

機械や電気など生産技術に関する知識、金属や樹脂材料に関する知識、切削や溶接をはじめとする金属加工の知識など、あらゆる工業製品の製造に関わる技術テーマを網羅的に取りあげる。

- ・電気の基礎とシーケンス制御
- ・金属加工技術（切削、研削、溶接など）
- ・金属、プラスチック 機械材料の基礎
- ・樹脂系複合材料活用セミナー など

2-2 環境技術セミナー

企業の社会的責任として求められる環境負荷低減や温暖化防止への取り組み方を解説。あわせて知っておかなければならない環境関連の法規制についても取りあげる。

- ・生産現場のエネルギーコスト削減策
- ・工場エアーの省エネ・トラブル対策
- ・環境法規制 基礎知識と対応策
- ・有害化学物質管理 など

2-3 設計実務研修

設計は品質やコストを決定づけるため、それを担う技術者のスキルアップは欠かせない。また、図面はものづくりの共通言語であり、誰もが読み取る力を身につける必要がある。設計・製図に関してさまざまな研修を開催する。

- ・図面の基礎（読み方、描き方、寸法公差）
- ・検図チェックシートの作り方と活用法
- ・設計者のための、加工技術基礎知識
- ・治具設計入門セミナー など

2-4 技能開発訓練

知識修得だけでなく実際の現場での技能を身につける研修を開催。研修施設を持つ企業と提携し、専門の指導員による技能訓練を行い現場作業者のレベルアップを図る。

- ・機械保全実践研修
- ・からくり改善実習コース
- ・油圧技術 基礎知識とメンテナンス
- ・スプレーガン塗装作業実習 など

1年間にわたる技術者育成研修。次代の技術力を担う若手・中堅技術者を対象に、機械系の工学基礎理論から応用技術知識までの修得、さらに高度な先端技術への理解を深めることを目的として、講義、実習、見学を行う。

昭和36年以来毎年継続して開講しており、これまでに2,400名を超える修了生を送り出してきた。就業と研修の両立のため、講義は夜間に実施。大学の機械系学部準じた基礎・専門科目をじっくり学ぶとともに、旋盤・溶接・CADなどの実技科目、実際のものづくり現場に触れる見学科目を組み合わせ、技術者としての総合力を養う。

今年度は、より実学指向を目指して講義内容を見直すとともに、企業の実務者が講師を務める特別講義科目では、最近のトピックテーマに再編。また、見学研修の訪問先再選定を行うなどプログラムの充実を図り、第56期として実施する。(4月開講～翌年3月修了。計130日間)

- 〔講義研修〕 材料力学、金属材料、機械要素、製図、加工技術など21科目
(大阪府立大学大学院工学研究科の教授を中心に講師を招聘)
特別講義として、デザイン、3Dプリンタ、生産革新など6科目
- 〔実技研修〕 NC旋盤、油空圧、溶接、CADなど7コースを設定(選択制)
(ポリテクセンター関西・兵庫の実習施設にて実施)
- 〔見学研修〕 ダイキン工業(株)、(株)西島製作所、(株)ジェイテクトなど10社を訪問

2-6 切削加工技術者養成講座

切削加工は機械部品の製作において必須の加工法である。しかし、最近では、工業高校や大学の機械系学部でさえ学ぶ機会が減っており、現場に配属されて初めて接するような状況にある。本講座では、切削加工技術者に必要な知識を体系的に把握・理解することを目的として夜間20回の講義、8回の実習、2回の工場見学を組み合わせた6か月間のプログラムを編成。実施にあたっては、大阪工業大学工学部の協力を得て、経験豊富な講師陣を迎えるとともに大学が保有する実習機を活用し、より実践の場で役立つ内容とする。

- 〔講義研修〕 切削基礎理論、切削工具、被削材の知識、最適加工条件など
12科目(夜間に実施)
- 〔実技研修〕 旋盤、ボール盤、立フライス盤、NC加工、測定実習の5科目
(大阪工業大学ものづくりセンター〈モノラボ〉で実施)
- 〔見学研修〕 工作機械メーカーとしてDMG森精機(株)を
切削工具メーカーとして三菱マテリアル(株)を訪問

企業の持続的発展のためには、限られた経営資源（ヒト・モノ・カネ）をいかに活用し、パフォーマンスを高めていくかが大きな課題である。日本の人口は減少の一途を辿り、国内需要の縮小は避けられず、労働力確保の難しさもこれから顕在化してくる。飽和状態にある市場では受注獲得に向けた競争はますます激しくなり、収益を確保していくには営業力強化とともに経営管理体制の充実も欠かせない。また、成長市場を求めて海外へ打って出ることも必要になってくる。

こうした経営上の課題に対処していく人材の育成、能力開発が本事業の目指すところである。

テーマは幅広く、経理および経営管理、人事労務管理、営業戦術、グローバル化対応、さらには従業員個々のスキルアップまでもが含まれる。個別の職務や階層に合わせた研修講座、セミナーを開催することにより、生き残りをかけて経営革新に取り組もうとする企業を支援していく。

3-1 経営管理セミナー

企業の収益向上や財務体質の改善を目的に、経営に関する実務課題についてさまざまなテーマを設定。実務スタッフだけでなく、経営者や部門管理者も対象としたセミナーを行う。

- ・管理会計の基礎と企業経営への活用法
- ・ランチェスター戦略の実践展開
- ・はじめて学ぶ決算実務 速習コース
- ・損益分岐点分析 徹底活用法 など

3-2 人事管理セミナー

労働関係法令の理解を促し、各種手続き業務をはじめ、従業員の採用や人事考課、賃金、処遇など、人事労務に関するテーマを全般的に取りあげる。

- ・実務者のための事務手続き 速習コース
- ・海外勤務社員の保険と税務 取扱い実務
- ・事例で学ぶ 労務トラブル予防対策
- ・大学新卒者 採用のテクニック など

3-3 営業強化セミナー

基本的な営業マナーや商談・交渉スキルといった全ての営業社員に必要な能力と、管理職として組織をまとめるマネジメントスキルなど、階層ごとに求められる能力を修得する研修を行う。

- ・顧客目線で作る販促ツール・カタログ
- ・営業担当者のための材料と加工の知識
- ・第一線営業マン 基礎力強化研修
- ・営業マネージャー研修 など

3-4 国際経営セミナー

事業のグローバル化対応のためのセミナーを開催。経営者層には意思決定や戦略立案につながるテーマを、実務者向けには貿易書類の作成、法律知識などのテーマを取りあげる。

- ・初任者のための貿易実務基礎セミナー
- ・海外取引の英文メール、書類作成講座
- ・海外販路開拓の進め方とリスク対策
- ・海外進出事業計画の立て方 など

3-5 経営管理実務研修

経営管理機能の強化を目指して、経営者・経営幹部・管理スタッフを対象に、具体的な実務課題を取り扱った中長期の研修を実施する。

- ・社長が知っておくべき経理・財務の基礎
- ・人事部長のための人事労務管理実務
- ・工場管理者の原価計算マスターコース
- ・初めて学ぶ経理 など

3-6 職務別能力開発研修

各部門における第一線担当者を対象に、日常業務を確実にを行うために必要な知識の習得と、職務実践力の向上を図る。同時に、動機づけを促し業務の円滑な推進に資する。

- ・総務担当者の実務スキルアップ研修
- ・入社2年目研修(間接部門編、製造部門編)
- ・職場のコミュニケーションと報連相
- ・できる社員の機転力向上 など

3-7 階層別能力開発研修

経営目標の達成に向けた各自の責任・役割の自覚を促すため、各階層に求められる実務知識・基本行動を整理する。立場に応じた職責を全うするための要諦を演習やグループ討議を通じて指導する。

- ・部長研修
- ・課長研修
- ・係長研修
- ・主任研修 の4コースを開催

3-8 内部監査員教育研修

内部監査はISOの有効性を引き出すために必須のものである。それを担う人材を養成するため、規格解説から模擬監査までを行う。

- ・ISO 9001 内部品質監査員養成講座
- ・ISO14001内部環境監査員養成講座
の2コースを開催

本事業は、新しい知識・情報を得るだけでなく、参加者相互の交流および連携の促進を図る研究会活動を主体としたもので、研修などの人材育成と並ぶ協会事業の大きな柱である。

企業活動にあたって必要となるさまざまな経営課題、例えば知的財産、海外戦略、環境・省エネ、あるいは製造業では欠かせない生産技術や加工技術、また話題の新しい技術など、ユニークなテーマを設けた研究会を多数開催。中長期にわたり1つのテーマに沿って定例会合を開き、講義一辺倒ではなく、参加者間の意見交換や情報交流を盛り込んで相互研鑽を図る。

異業種・異分野の多彩な企業、かつ規模の大小を問わずさまざまな企業が集うのは、当協会ならではの特色である。その相互理解を促し、そこから新たなビジネスの芽を育むことも産業団体としての使命であると考えており、本事業は今後さらに充実させていく。

4-1 工場経営研究会

ものづくり企業の経営幹部・工場責任者が一同に会し、ディスカッションや情報交換により相互研鑽を図る。企業規模や事業内容が違っていても、製造業の経営の一翼を担う者として共通する課題を取りあげ、全20回の研究会を開催。各回のテーマは、生産管理や改善手法など工場に不可欠な実務知識から、財務・法務問題、人事労務、人材育成までを幅広く網羅している。将来にわたって事業を継続させていくための先導者として、経営感覚を身につけるとともに、経営の視点から工場全体を統括・マネジメントできる力を高めていく。

4-2 知的財産研究会

後援／近畿経済産業局 大阪府

企業における法務や知的財産担当者、研究・開発部門スタッフ、および弁護士・弁理士などの専門家を対象に全10回の研究会を開催。運営にあたっては大阪工業大学知的財産学部と連携し、これからの知財保護・活用戦略を考えるさまざまなテーマを取りあげる。

今年度は、昨年の参加者アンケートで要望の多かった、企業の知財活動の実例、海外展開にまつわる知財面での攻めと守りの戦術、制度改定に伴う実務対応といった、喫緊の課題を掘り下げていき、情報収集のみならず参加者間の意見交換を行う。

4-3 事業承継対策研究会

中堅・中小企業の経営者および経営後継者を対象に、事業承継にまつわる諸問題をクリアにするための研究会を開催する。事業承継に関して押さえておきたい経営管理の実務、法律・税制面の知識、人事・労務面での備えなど幅広いテーマを取りあげるとともに、ケーススタディとして事業承継の成功・失敗事例とその要因分析を行う。同じ立場にある者同士が課題を共有し、活発な意見交換・交流を図ることで経営者としてのマインドを醸成する。

4-4 海外事業戦略研究会

海外進出を検討している企業に対する適切な情報提供の場として、経営者層をはじめ海外事業部門や経営管理スタッフを対象に開催。海外事業展開におけるさまざまな課題をステージ（進出プロセスの各段階）ごとに取りあげ、留意点や具体的な対応策を学んでいく。

研究会は講義と参加者間のディスカッションで構成。講演者には、海外進出の実務や駐在経験のある現役社員あるいは企業OBを招き、実例をもとに議論を深める。

4-5 省エネルギー対策研究会

後援／近畿経済産業局 大阪府

省エネルギーはコスト低減のためだけではなく、限りある埋蔵資源の消費量削減、温室効果ガスの抑制による環境負荷低減といった観点から、企業が取り組むべき命題である。本研究会では、生産設備の電力や熱などのムダを削減し、エネルギー消費を極力抑えるための手法や最新技術を学び、現有設備の見直し・省エネ改善の促進を図ることを目的とする。これにより工場オペレーションコストの圧縮による収益面への貢献、企業の社会的責任としての環境負荷低減を同時に実現する工場運営のあり方を追求する。

4-6 環境実践研究会

企業から見た環境問題は、リスクである反面新たなビジネスチャンスの芽も包含している。例として、環境配慮や省エネ性、リサイクル適性を謳った商品の開発は、新市場の獲得に向けて可能性が広がりつつある。また、エネルギー関連の環境技術については、再生可能エネルギーを利用した発電やコージェネレーションによる分散型電源、およびそのエネルギーマネジメントなどが成長分野として注目に値する。さらに電気自動車や燃料電池自動車向けのインフラ整備に関しても今後の新たな市場の形成が期待される。こうした分野の最新情報を収集する場として本研究会を開催する。

4-7 3Dプリンタ実践研究会

「ものづくりの世界を変える」「誰でもメーカーになれる」などと話題の3Dプリンタ。これまでの常識では考えられなかった用途や実際の製品に利用され始め、中小企業においても活用する動きが広がっている。本研究会では、3Dプリンタに関わる最新情報、およびさまざまな導入事例を取りあげ、3Dプリンタを導入するにあたってのヒント、活用するためのノウハウを獲得する。

4-8 工作機械加工技術研究会

機械加工はものづくりの基盤技術であり、日本が世界に誇れる分野である。最近の工作機械は、超精密加工、高速化、省エネ性などと時代の要請に合わせて進化を続けており、国際的な企業間競争を勝ち抜くために、より一層技術レベルの向上が図られている。ユーザーにとっても、こうした先端技術を取り入れることが競争力を高めることにつながるの確かで、今後の技術動向に注目しておく必要がある。本研究会では、機械加工、工作機械の最新情報を得るため、機械メーカーの見学や先進事例を紹介する講演会を開催する。

4-9 新産業と技術革新研究会

変化の激しい時代には、自身の目と耳での確かな情報を収集することが欠かせない。そこで、新たな市場領域の開拓、異分野でのビジネスチャンスの獲得、あるいは生産システムの再構築など、事業の新展開につながるヒントを得るため、以下に挙げるようなさまざまな研究会を開催。個々の企業ではなかなか得られない情報に触れる機会を提供する。

「優れた中堅企業 ものづくり経営研究会」

特徴的な技術を持つ、あるいはニッチ市場で強みを発揮するなど、個性豊かで活力のある中堅・中小企業を訪問。実際のものづくり現場を見学するとともに、その会社のトップと意見交換を行うことで、企業経営の考え方や市場戦略に関するヒントを得る。

「生産技術レベルアップ研究会」

生産性向上のヒントやアイデアを掴むため、創意工夫による優れた生産技術力を有する工場を訪問。絶え間ない改善活動により生産の効率化と品質の向上、人と組織の活カアップ、技能伝承や人材育成などに成果をあげている、実際の取り組み事例に学ぶ。

「進化する次世代工場 最新技術研究会」

ものづくりは今、世界的に大きな変革の時を迎えている。先進企業では、それぞれのニーズに合う一品一様の製品を大量生産と同等レベルの効率やコストで作る生産方式へと進化しつつあり、オンデマンド生産、パーソナライズ化、スマートファクトリー化などといったキーワードで語られている。これらのものづくりを可能とするのは、最新ロボット技術やFAシステム、デジタル機器などに代表される最新テクノロジーである。本研究会では次世代の工場をテーマに、生産現場のIT化・FA化、ロボット活用などの事例を紹介する。

「自動車テクノロジー研究会」

今や環境対応型自動車が主流となり、プラグインハイブリッド車、燃料電池車の登場で市場が活性化している。また、自動運転や衝突防止などの運転支援システムも進化している。こうした流れを捉え、中小企業にとっての今後のビジネスチャンスを探るため、自動車メーカーや部品メーカー各社の戦略および技術動向を知る場として研究会を開催する。

「航空機産業研究会」

民間航空機の需要は世界的な伸長が続いており、日本においても国産ジェット機の生産が本格化するなど、今後さらなる市場活性化が見込まれる。そこで、これから航空機産業へ参入しようとする企業への情報提供の場として、航空機関連メーカーからゲストスピーカーを招いての講演会や生産現場の見学を行い、外注加工などのニーズや市場動向を探る。

「医療機器産業参入研究会」

高齢化や健康志向の高まりにより、健康・医療・介護分野には多様なニーズが潜在している。それをビジネスに結びつけるにはどうするか。そのヒントを得るための情報収集の場を設け、業界のニーズを探るとともに、市場参入した中小企業の事例から学ぶ。

5

経営支援・会員交流推進事業

当協会は約 1,200 社からなる会員組織を有し、大企業から小規模企業まで、また機械、金属、電機、化学、食品、あるいは卸売業といったように、規模や業種の異なる多様な事業所が参画していることが大きな特色である。こうした会員事業所間の有機的な連携と協調を促進するため、経営支援および会員交流に関わる事業を積極的に展開していく。

5-1 機関誌「商工振興」の刊行

大阪府商工労働部監修

会員事業所へのインタビュー記事や、専門家による解説記事、行政からの広報などを収録し、毎月1回発行。また、会員事業所の創業の歴史や創業者の逸話を紹介する「創業者偉人伝」や、ものづくりにまつわる専門用語を分かりやすく解説する「ものづくりワードQ&A」といった新しい企画記事を掲載する。今年度は表紙デザインの刷新、カラーページの追加などにより、内容の充実とともに見やすさ、読みやすさも高めていく。

5-2 経営指導・情報広報

会員事業所からの経営上、技術上の相談に応え、情報提供や専門家の紹介を行うほか、社内研修の要望に対しては、ニーズに合ったカリキュラムの編成から講師派遣までをサポート。従業員の自己啓発・自主活動に対しては、通信教育講座および研修用DVD教材の貸し出し等により対応する。さらに、会員事業所を対象とした参加無料の講演会を開催し、時宜に応じたトピック的なテーマを取りあげ、経営に役立つ情報を発信していく。

5-3 新入社員教育講座

新入社員に社会人としての自覚を促すとともに、働くうえで必要な基本行動・知識を修得させる。総合基礎教育のほか、職種別の導入教育やビジネスマナー研修を実施。さらに、機械金属、プラスチックメーカーに的を絞った専門知識の修得コース、規律や礼儀を身につけさせる禅寺合宿研修など、多様なニーズに合わせたカリキュラムを提供する。

5-4 経営者・経営幹部交流会

経営者として経済の状況を見極め自社の明日を考察する機会として、あわせて経営者相互の交流の機会として、「経営セミナー」を年2回開催。特色ある事業展開や商品戦略で注目を集める企業の経営者、あるいはエコノミストなどを招聘しての講演会を行う。今年度は新たに、会員事業所の工場幹部の相互交流の場として、ものづくりにおける取り組みについての講演やパネルディスカッションを行う「工場長大会」を実施する。

5-5 中堅技術者交流会

ものづくり企業の持続的な発展には、次代を牽引する技術者の育成が不可欠となる。専門分野の枠を超えた広い視野と柔軟な発想、新規事業展開ノウハウを備えたエンジニアの養成を目指して、ものづくり各分野の経験豊富な講師による講義と参加者同士のディスカッション、企業による事例講演などを行う「技術者革新塾」を実施する。

5-6 経営マネジメントスクール

中堅・中小企業の若手管理職、管理職候補者を対象に、マネジメントの原理・原則を共に学ぶ場として開催。経営の持続的発展に貢献し、組織の目標を達成していくために必要な戦略的思考や分析能力、あるいは計画立案力、問題解決力、チームオペレーションといった、管理職としての本質的なスキルを高めることを目的とする。

5-7 新技術研究会

需要の変動に対応し、変種変量生産を機敏にこなす工場。オンリーワン技術で強みを発揮する工場。海外生産拠点のマザー機能を発揮する工場。など国内生産で強い競争力を持つ工場はまだ数多く存在し、日本のものづくりの底力を体現している。こうしたメーカーの現場見学と技術講演を行い、独自のコンセプトを見る・聴く・学ぶことによって最新の技術動向を掴み、今後の経営や工場運営に役立つ情報を吸収する。

5-8 施設・工場見学研修

異分野の現場に学ぶ見学研修を積極的に実施し、経営者あるいは技術者の情報収集ニーズに応えていく。三現主義という言葉があるように、机上の論理ではなく、「現場」で「現物」を観察し「現実」を認識したうえで問題解決を図ることが重要である。とくに、ものづくりにおいては現場から学ぶことが多く、生産性の向上、製品の改良、新製品開発のヒントも現場でこそ見出すことができる。工場以外に、研究機関や物流施設などへも訪問する。

5-9 海外産業視察研修

日本企業の海外事業所や現地メーカーを訪問し、実際の姿を見聞、学ぶ機会を提供する。大手メーカーの国内回帰が進む状況においても、市場のグローバル化は無視することはできない。国外の経済情勢は刻々と変化しており、「百聞は一見に如かず」の言葉どおり、現地を訪れることには大きな意義がある。海外のものづくり現場の実地見学および現地法人責任者とのディスカッションを通して、マスメディアでは得られない活きた情報を掴む。

5-10 展示商談会

会員事業所と大手メーカーとをつなぐマッチング事業として、会員事業所が持つ技術・製品を直接アピールする「新技術・新工法展示商談会」を実施。今年度は、自動車部品最大手、(株)デンソーの本社イベントホールを会場に、50ブース程度を設けた展示会を開催し、同社の調達・技術担当者や関連サプライヤーへの販路開拓を支援する。

5-11 優良従業員表彰

会員事業所における労使関係の安定と従業員の勤労意識増進を図るため、昭和37年より毎年実施している「優良従業員表彰」。永年勤続かつ他の模範となる従業員として事業主から推薦を受けた者を選考し、会長名による表彰を行う。

5-12 会員交流と懇親会

会員企業経営者・事業主の相互理解と親睦を深め、連携・協力が円滑に図られるよう、交流・懇親の場を設ける。

*新春年賀交歓会 *会員交流ゴルフコンペ

5-13 会員名簿刊行

会員事業所の紹介と会員の相互交流・融合化の一層の促進を図ることを目的に、所在地、従業員数、事業内容などの現状調査を行い、会員名簿を刊行する。

以上